

管内信用金庫の平成20年度決算の概要について

管内信用金庫の20年度決算の概要は、以下のとおり。

(2・3ページ目)

損益の状況について

コア業務純益は808億円(前期比11.0%の減益)となっている。

主な内訳としては、資金利益が3,442億円(0.9%の減益)となり、役務取引等利益が191億円(10.3%の減益)となっている。

当期純利益は、コア業務純益の減益に加え、投資信託や株式等の減損処理の増加等により、国債等債券関係損益が▲502億円、株式等関係損益が▲387億円となったほか、不良債権処理費用が▲447億円発生したこと等により、▲620億円(319.7%の減益)となっている。

(4ページ目)

不良債権の状況について

不良債権処理費用は、建設業を中心に大口破綻が発生したものの、一般貸倒引当金の戻入れが発生したこと等により、前期に比べ2.4%減少している。

また、不良債権比率は、前期に比べ0.57ポイント低下している。

(5・6ページ目)

有価証券の状況について

株式市場の低迷を受け、株式や株式投資信託を中心に売却損の計上や減損処理等が行われたこと等により、有価証券関連の損失が収益を上回った。

また、その他有価証券評価損益は872億円の評価損となり、前期に比べ662億円悪化している。

(7 ページ目)

コア業務純益に対する不良債権処理費用と有価証券関係損失の状況について

有価証券関係損失が増加したことにより、不良債権処理費用との合計がコア業務純益を上回った。

(8 ページ目)

自己資本比率の状況について

自己資本比率は、0.44 ポイント低下している。

(9～11 ページ目)

預貸金利鞘の状況について

預金等利息は 704 億円と前期と比べ 91 億円増加し、貸出金利息は 2,783 億円と 49 億円増加していることから、預貸金収支は 42 億円の減益となっている。

要因としては、利回は預金が 0.03 ポイント上昇、貸出金が 0.02 ポイント低下、残高はそれぞれ 22 兆 8,264 億円、12 兆 3,884 億円と 3.0%、2.6%増加となっている。

この結果、預貸金利鞘は前期と比べ 0.03 ポイント縮小しており、管内の金融環境は、引き続き低金利貸出による激しい競争が続いているものとみられる。なお、与信費用を差し引いた実質的な預貸金利鞘は前期と比べ 0.01 ポイント縮小している。

【お問合せ先】

財務省 東海財務局 金融監督第二課

TEL : (052) 951-1774

管内信用金庫の平成20年度決算の概要 (速報集計値)

平成21年6月19日
東海財務局



はじめに

東海財務局管内に本店を置く信用金庫(以下の39金庫)の平成20年度決算について、取りまとめを行ったのでこれを公表する。

管内の信用金庫

【愛知県内】

愛知信用金庫(名古屋市)、豊橋信用金庫(豊橋市)、岡崎信用金庫(岡崎市)、いちい信用金庫(一宮市)、瀬戸信用金庫(瀬戸市)、半田信用金庫(半田市)、知多信用金庫(半田市)、豊川信用金庫(豊川市)、豊田信用金庫(豊田市)、碧海信用金庫(安城市)、西尾信用金庫(西尾市)、蒲郡信用金庫(蒲郡市)、尾西信用金庫(一宮市)、中日信用金庫(名古屋市)、東春信用金庫(小牧市)

【岐阜県内】

岐阜信用金庫(岐阜市)、大垣信用金庫(大垣市)、高山信用金庫(高山市)、東濃信用金庫(多治見市)、関信用金庫(関市)、八幡信用金庫(郡上市)、西濃信用金庫(揖斐郡大野町)

【静岡県内】

静岡信用金庫(静岡市)、静岡信用金庫(静岡市)、浜松信用金庫(浜松市)、沼津信用金庫(沼津市)、三島信用金庫(三島市)、富士宮信用金庫(富士宮市)、島田信用金庫(島田市)、磐田信用金庫(磐田市)、焼津信用金庫(焼津市)、掛川信用金庫(掛川市)、富士信用金庫(富士市)、遠州信用金庫(浜松市)

【三重県内】

津信用金庫(津市)、北伊勢上野信用金庫(四日市市)、三重信用金庫(松阪市)、桑名信用金庫(桑名市)、紀北信用金庫(尾鷲市)

- ※ 各計数は、暫定の集計値に基づくものであり、今後変動があり得る。
- ※ 各計数は、当局調査に基づく計数(単体ベース)を集計したものである。



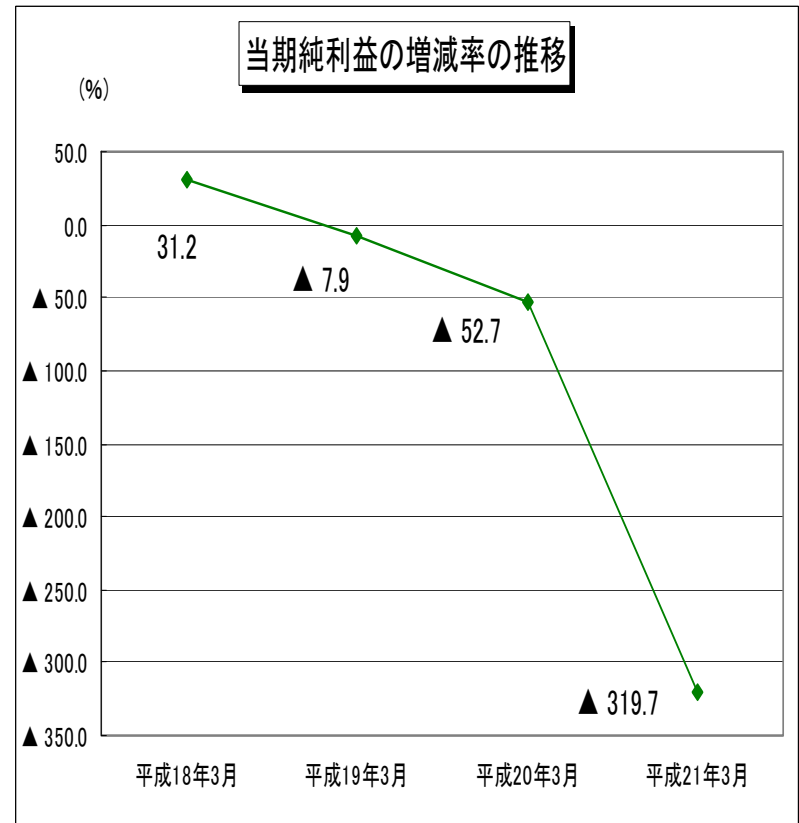
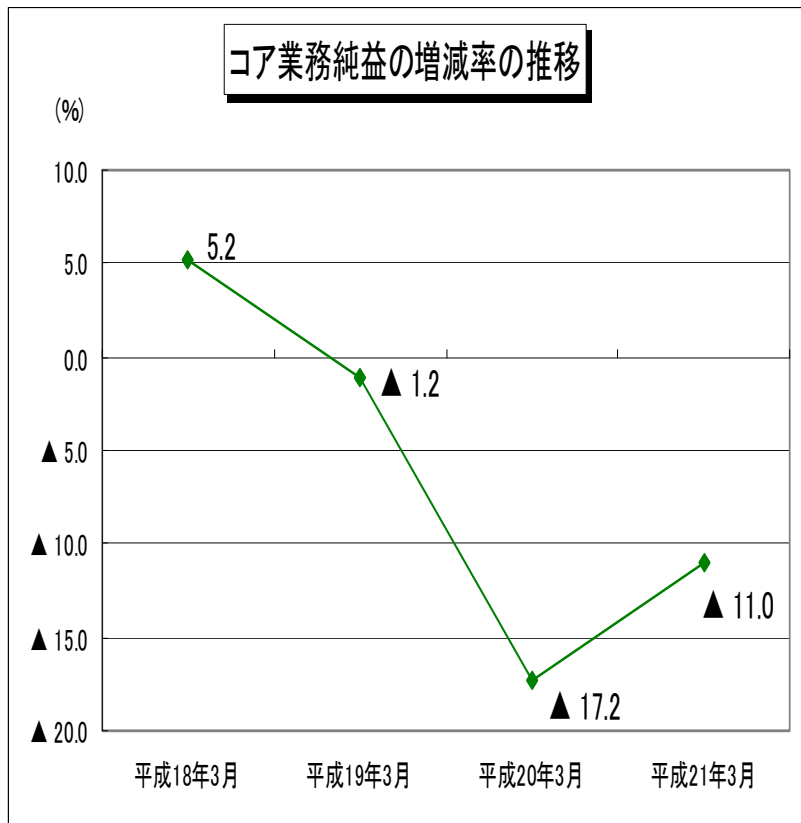
損益の状況

(単位:億円)

| | 18年3月期 | 19年3月期 | 20年3月期 | 21年3月期 | 増減額 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|-------|
| コア業務純益 | 1,110 | 1,097 | 908 | 808 | ▲ 100 |
| 資金利益 | 3,599 | 3,595 | 3,472 | 3,442 | ▲ 30 |
| 役務取引等利益 | 236 | 239 | 213 | 191 | ▲ 22 |
| 国債等債券関係損益 | ▲ 20 | ▲ 42 | ▲ 34 | ▲ 502 | ▲ 468 |
| 株式等関係損益 | 95 | 163 | 48 | ▲ 387 | ▲ 435 |
| 不良債権処理費用(▲) | ▲ 300 | ▲ 386 | ▲ 458 | ▲ 447 | 11 |
| 当期純利益 | 648 | 596 | 282 | ▲ 620 | ▲ 902 |

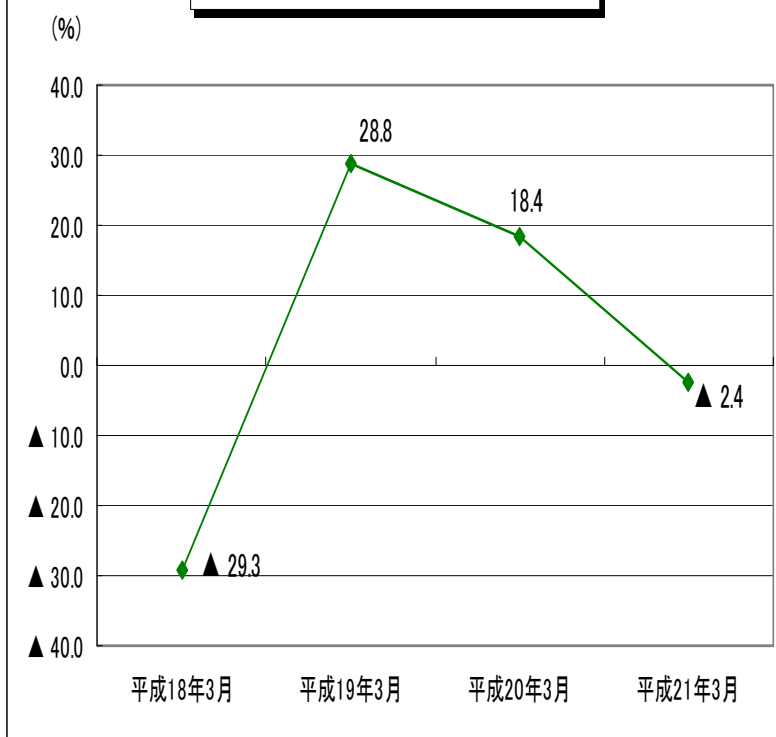


コア業務純益、当期純利益の 増減率の推移

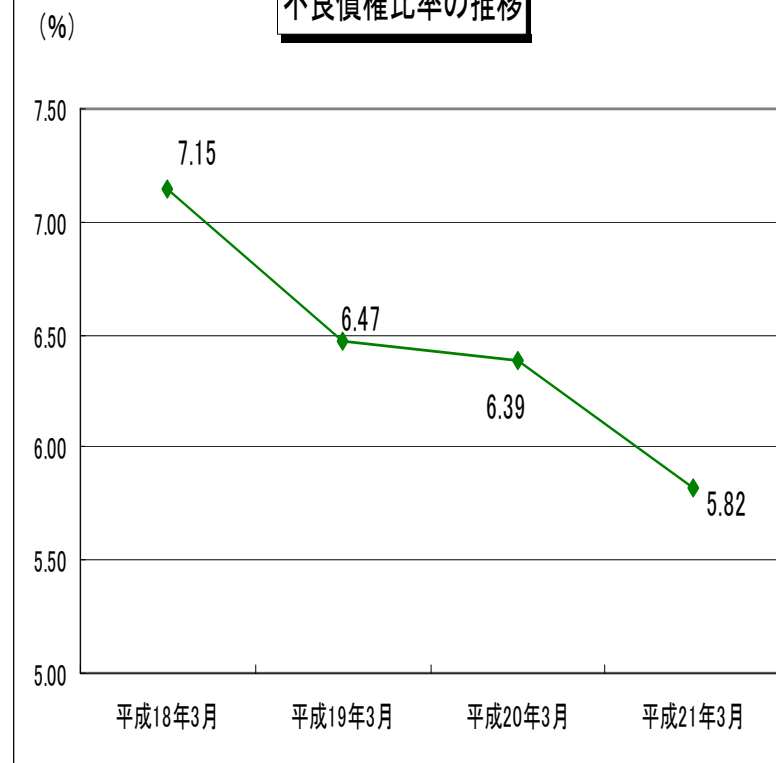


不良債権の状況

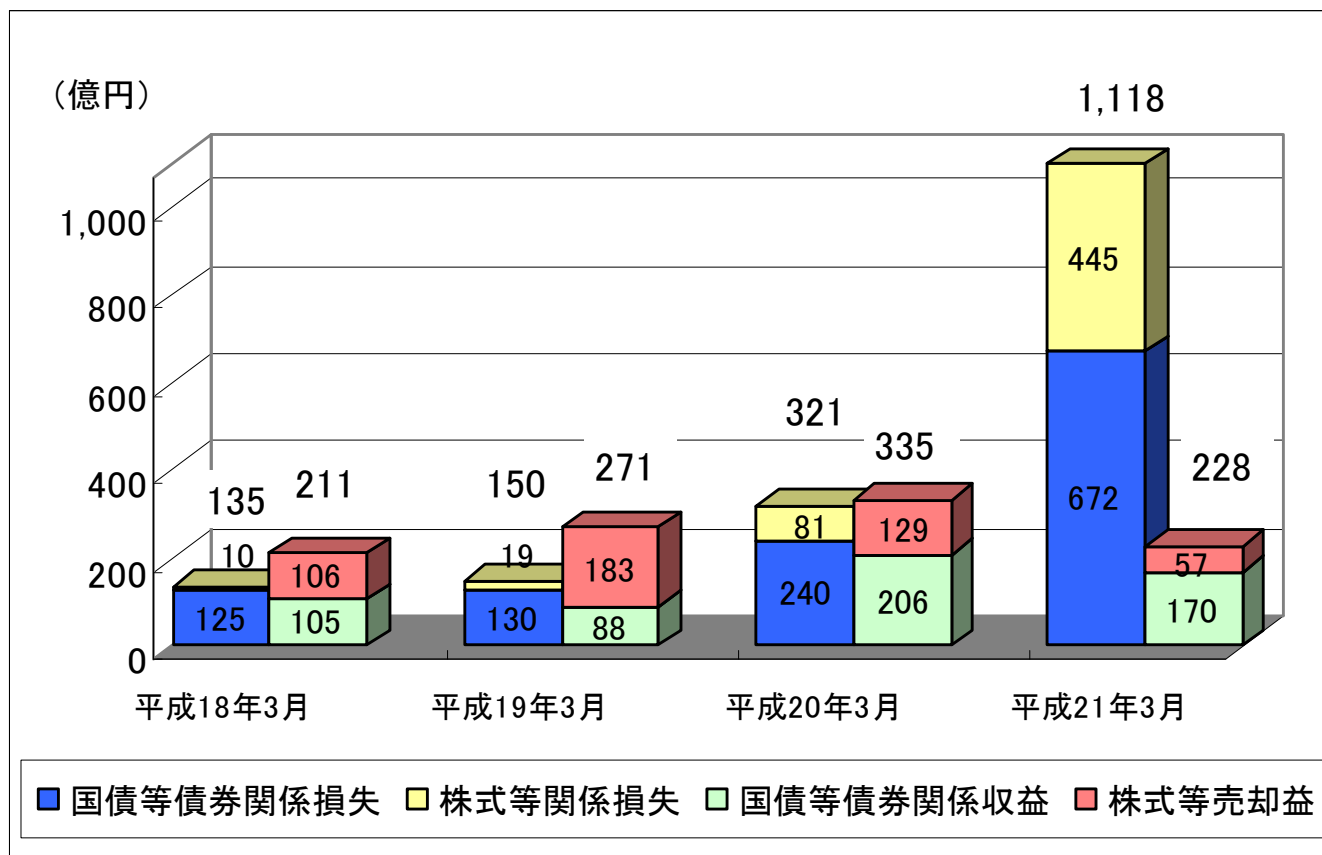
不良債権処理費用の増減率の推移



不良債権比率の推移



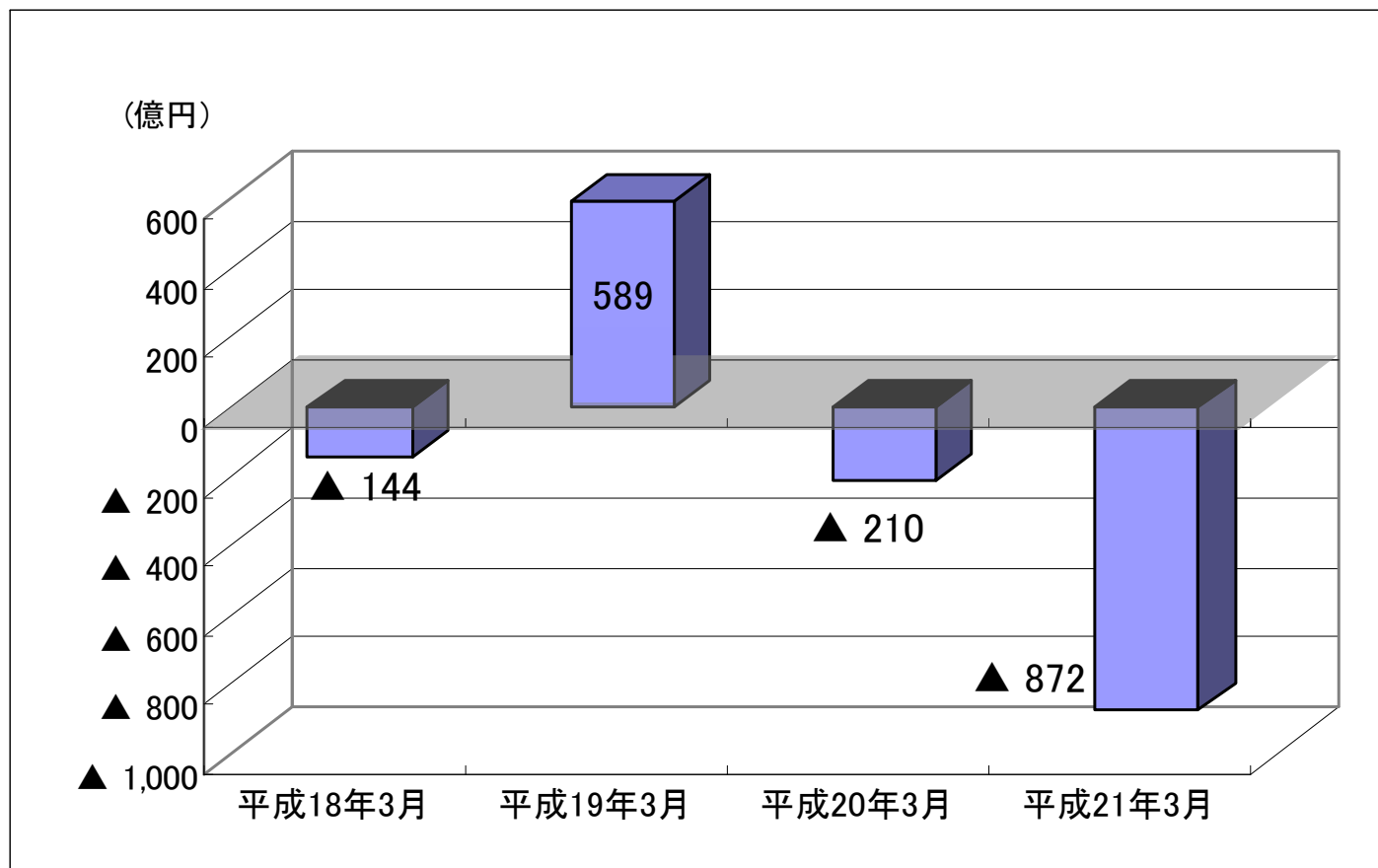
有価証券関係損益の状況



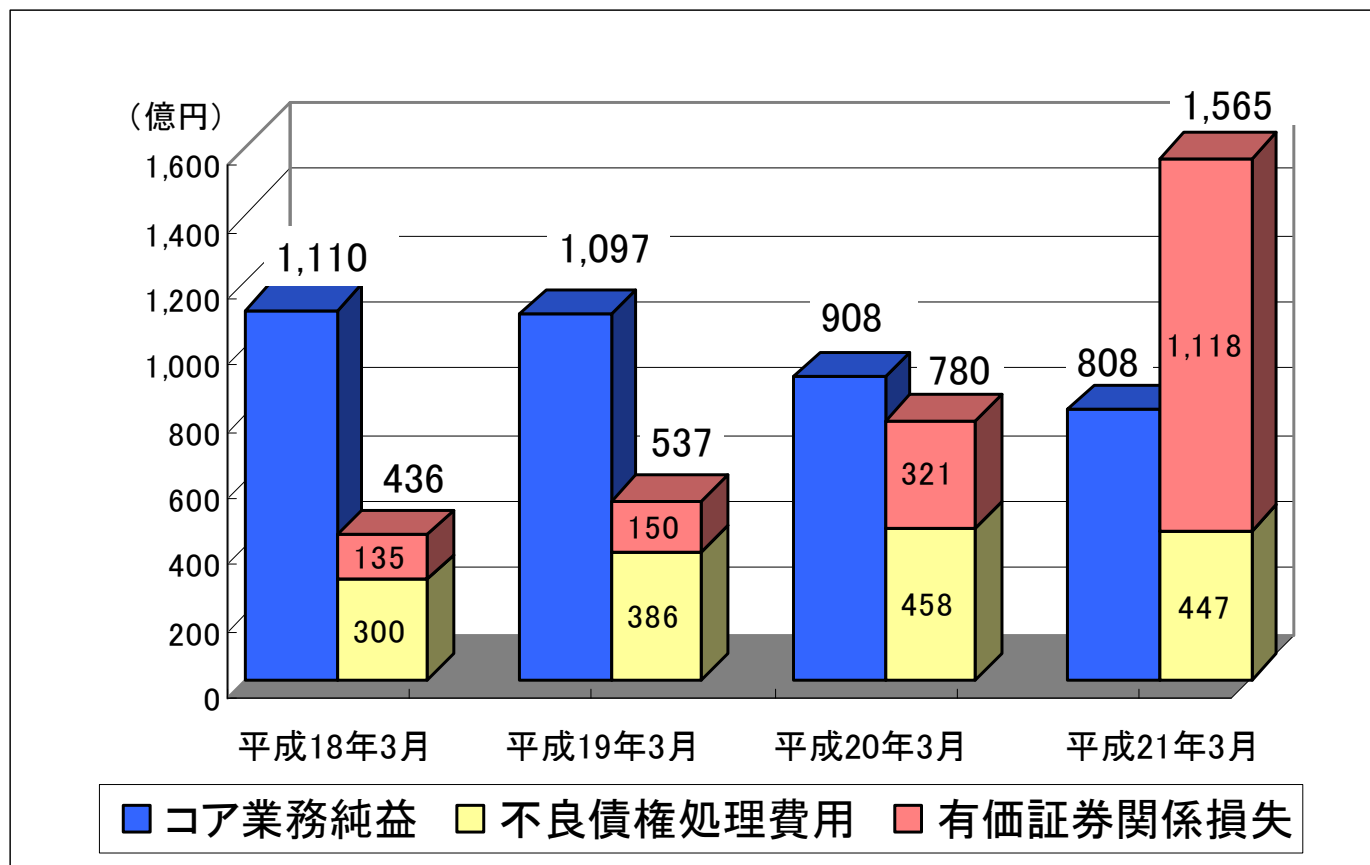
(注) 国債等債券関係損失 = 売却損 + 償還損 + 償却
 国債等債券関係収益 = 売却益 + 償還益
 株式等関係損失 = 売却損 + 償却



その他有価証券評価損益の状況



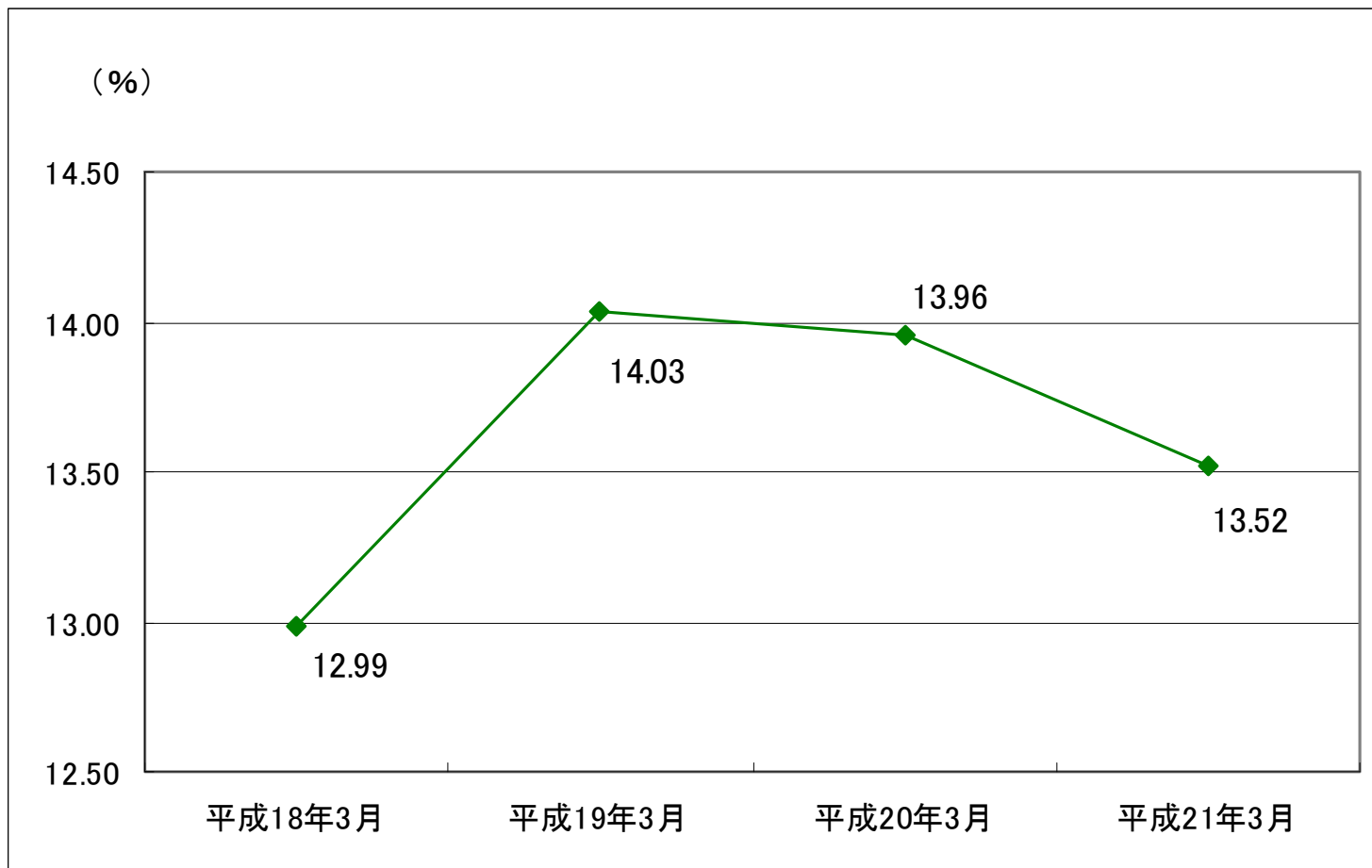
コア業務純益に対する 不良債権処理費用と有価証券関係損失の状況



(注) 不良債権処理費用＝一般貸倒引当金繰入額＋貸出金償却＋個別貸倒引当金繰入額＋債権売却損
有価証券関係損失＝国債等債券関係損失(売却損＋償還損＋償却)＋株式等関係損失(売却損＋償却)



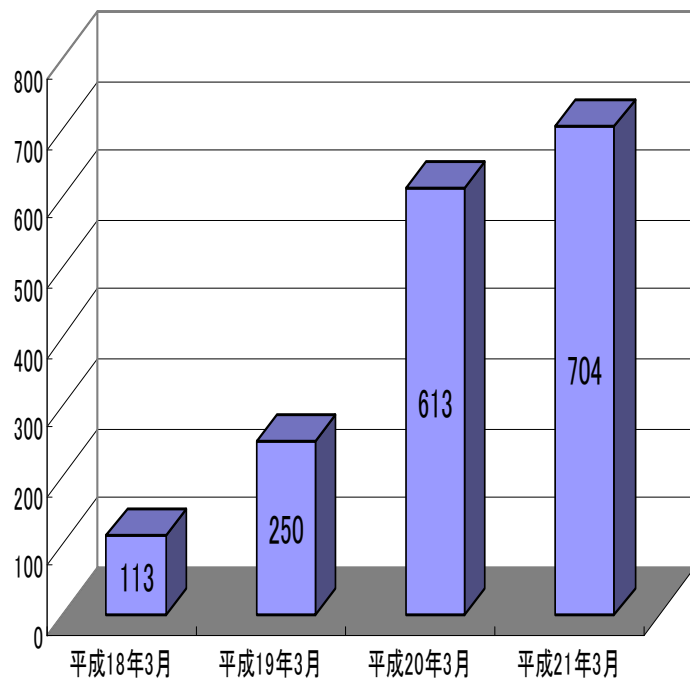
自己資本比率の状況



預金・貸出金の状況(1)

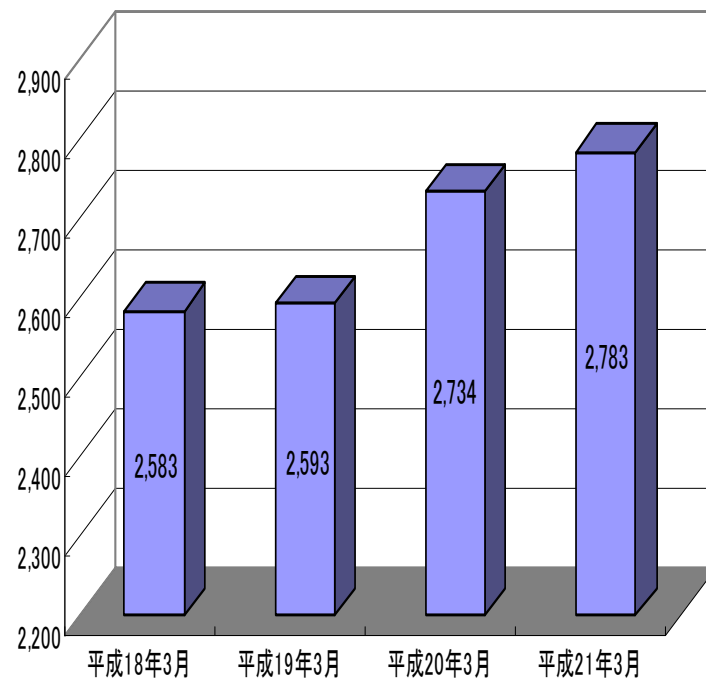
預金等利息の推移

(億円)



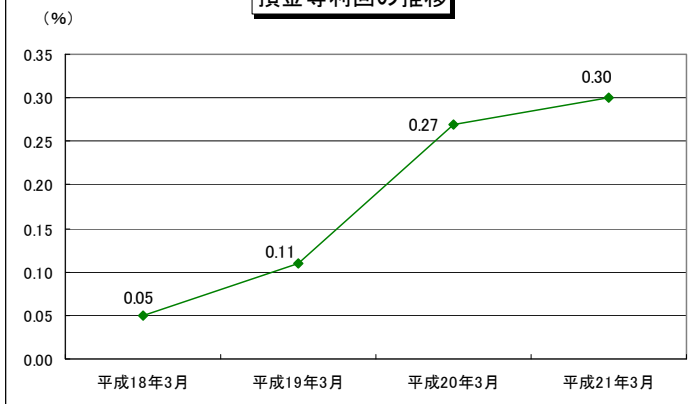
貸出金利息の推移

(億円)

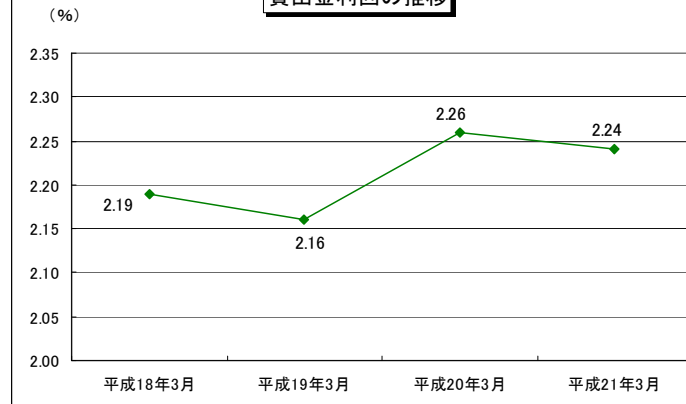


預金・貸出金の状況(2)

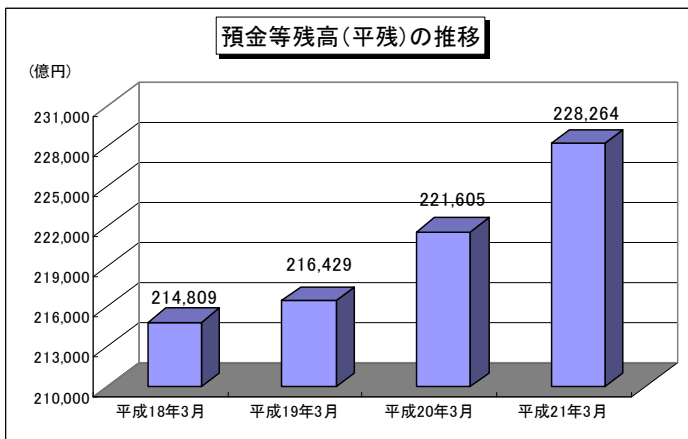
預金等利回の推移



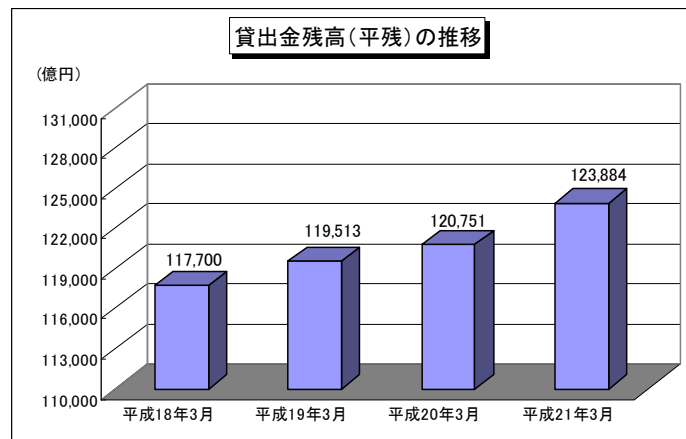
貸出金利回の推移



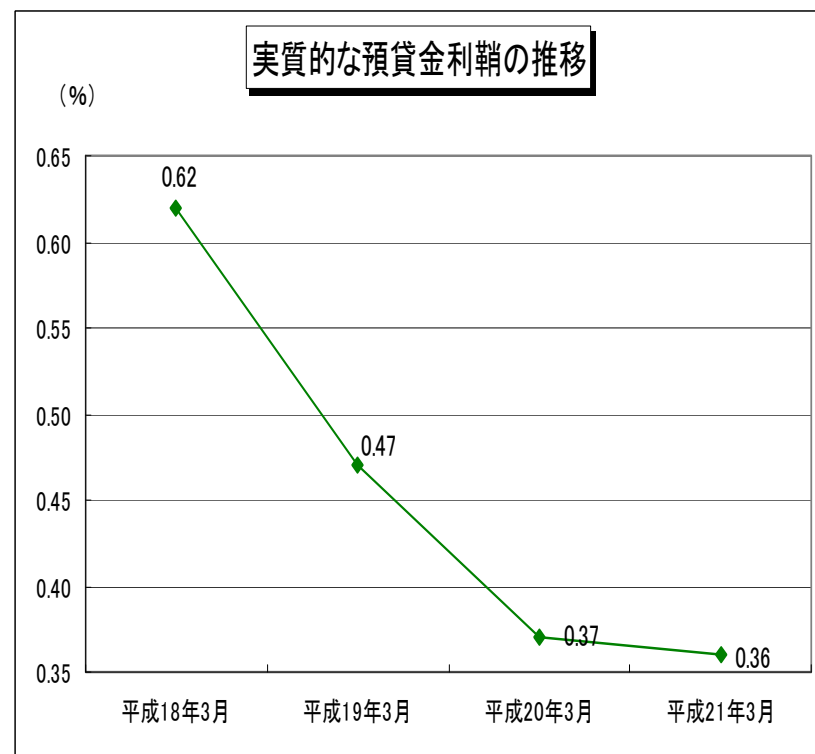
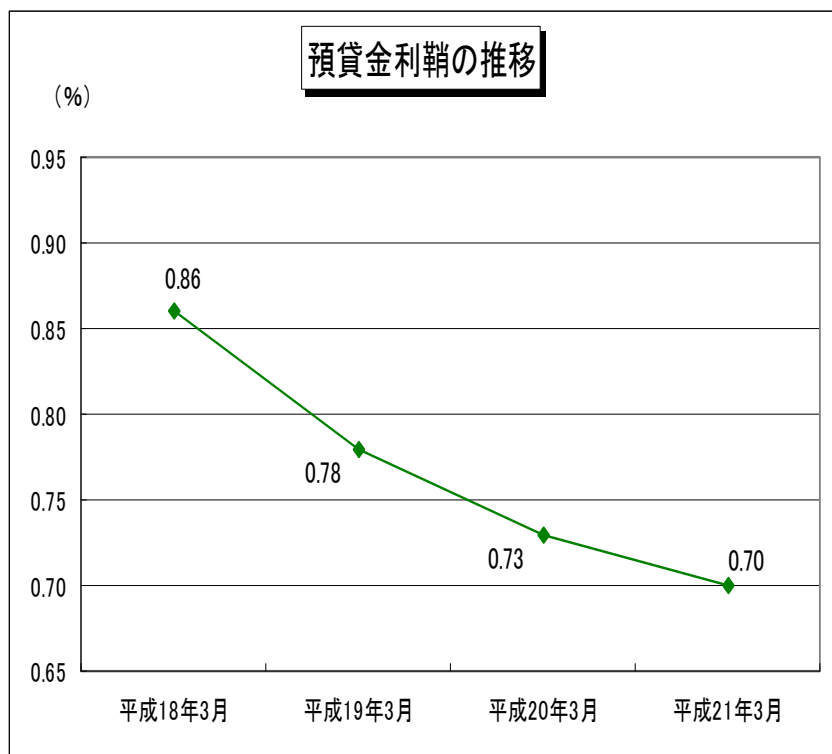
預金等残高(平残)の推移



貸出金残高(平残)の推移



預貸金利鞘の状況



(注) 預貸金利鞘 (%) = 貸出金利回 (%) - 預金原価率 (%)
預金原価率 (%) = 預金等利回 (%) + 経費率 (%)
経費率 (%) = 経費 ÷ 預金等 (平残) × 100

(注) 実質的な預貸金利鞘 (%) = 預貸金利鞘 (%) - 与信費用比率 (%)
与信費用比率 (%) = 与信費用 (不良債権処理費用) ÷ 総与信 × 100



(参考)管内信用組合の平成20年度決算の概要

(単位:億円、%)

| | 18年3月期 | 19年3月期 | 20年3月期 | 21年3月期 |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| 預金積金(平残) | 11,321 | 11,366 | 11,520 | 11,603 |
| 貸出金(平残) | 6,124 | 6,081 | 6,083 | 6,059 |
| コア業務純益 | 67 | 67 | 51 | 40 |
| 有価証券関係損益 | 3 | 1 | ▲5 | ▲48 |
| 当期純利益 | ▲1 | 26 | 24 | ▲33 |
| 不良債権比率 | 13.76 | 13.44 | 13.37 | 11.06 |
| 自己資本比率 | 11.45 | 12.63 | 12.29 | 12.21 |

(注)各計数は、東海財務局管内に本店を置く信用組合(16信組)の平成20年度決算を集計したものである。





(参考) 収益指標

● コア業務純益

コア業務純益 = 「業務純益」 + 「一般貸倒引当金繰入額」 - 「国債等債券関係損益」

● 業務純益

業務純益 = 「業務収益」 - 「業務費用」

業務収益 = 「資金運用収益」 + 「役務取引等収益」 + 「その他業務収益」

業務費用 = 「資金調達費用(金銭の信託運用見合費用控除後)」 + 「役務取引等費用」
+ 「その他業務費用」 + 「一般貸倒引当金繰入額」 + 「経費」

● 資金利益

資金利益 = 「資金運用収益」 - 「資金調達費用(金銭の信託運用見合費用控除後)」

